

【外国語学部】令和6年度 FD 活動の「年間計画」

1. 今年度の取り組み（前年度の「FD 年間報告書」から修正）

入学試験での志願者減に加え、入学定員の充足も厳しい状況にある本学部は、新たな教育手法の導入や課題解決型の学習・教育の実施を積極的に行い、受験生にとって魅力的で、かつ社会のニーズに即した学びの機会を提供し、志願者・入学者を獲得していくことが強く求められている。このため、令和9年度からの学部改革を見据えつつ、課題解決型学習(PBL)やCOIL型教育の導入、機械翻訳・生成AIの利活用、さらには、インターンシップやフィールドワークなどを取り入れた学部独自の新たな海外実習科目の新設などを令和7年度から順次行っていくことを計画している。

その際、昨年度に実施したPBL型授業の研修、機械翻訳を使った授業の講演やワークショップをさらに充実させ、各教員が担当する授業科目に落とし込むようなワークショップの開催が望まれる。その一貫して、初級の言語教育におけるAIなどを使用した効果的な授業展開についての講演とワークショップを企画している。外国語が実際に使用される場面で、ICTを効果的に活用した新たな外国語の学びを創出する予定である。

2. 「1」を踏まえて、今年度の重点テーマ・目的・期待する効果等についてお書きください。

(1) テーマ： 社会のニーズに即した学びの提供

(2) 目 的：令和7年度から順次導入を計画している課題解決型学習(PBL)、COIL型教育、機械翻訳・生成AIの利活用、さらには、インターンシップやフィールドワークなどを取り入れた学部独自の新たな海外実習科目の新設などに向け、その先行事例となる取り組みや本格的な開設に向けた調査・準備等を行い、令和9年度からの学部改革を見据えた新たな教育手法の導入や課題解決型の学習・教育の実施をスムーズに行うための基盤を学部内に作る。

(3) 期待する効果：学部内で既存科目での実施例がほとんどない中、先例となる取り組みの試行や本格的な開設に向けた調査・準備等を行い、そこで得られた効果や課題等を学部内で共有することにより、科目の新設、既存科目の改善におけるさまざまな障害を軽減し、新たな教育手法の導入や課題解決型教育の実施を進め、社会のニーズに即した学びの機会を提供するため基盤を作ることができる。

3. 公開授業等について

公開授業やワークショップは、教員間で教授法を学び合う機会、学部のカリキュラム改善等について検討する機会として年1回以上設定・実施してください。

なお、実施にあたっては、出席者の記録をお願いいたします。出席者記録の提出は不要ですが、年間報告書にて、出席人数の記載をお願いいたします。

なお、出席者記録は、提出をお願いする場合がありますので、保管しておいてください。

(1) 公開授業・ワークショップ：

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

PBL科目として来年度予定している「外国人への観光案内プロジェクト（仮称）」を実施するに当たり、外部の専門家を計3回招き、対面での機械翻訳の講義をお願いしている。この講義を公開授業とする。（講義は録画をし、対面で出席ができない教員も後日視聴できるようにする。

講義を通じて、外国語学習における機械翻訳の有効な活用法について学び、forms 等で教員の意見や感想を共有し、学部改革に向けた新たな外国語学習法の創出につなげる予定である。

(2) その他研修会等：

8 月 21 日に「高校英語教育の現状について」と題し、滋賀県私立光泉カトリック高等学校の英語教諭である松村優花氏を招き、本学に入学を検討している層の生徒の実情とそれを踏まえた英語教育についてお話を伺う。あわせて、本学教員が海外日本語教育事情を話し、近年の言語(外国語)教育の潮流を共有する。これらを踏まえ、教員間のワークショップを開催し、学部改革に向けた新たな外国語教育の質的転換の可能性について共通認識を深める機会とする。

※この内容は本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。